

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成22年 6月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770108468		
法人名	社会福祉法人 おおとり福祉会		
事業所名	ほがらか鳳グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市鳳東町5丁460番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成22年9月16日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成22年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・6人という小規模による個人を尊重しながらも一つの家族としての生活の場の提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

・JR鳳駅から徒歩5分のところにあり、周囲にはスーパー、区役所、商店街があり、非常に便利な立地条件です。
・玄関は施錠されておらず、玄関前の木製のベンチに座られてたり、鉢植えに水をあげたりと自由に行き来されています。
・ホーム内は家庭的な雰囲気、職員は私服で対応しており、6人という小規模の中で、家族のような係わりがもたれ、和気藹々と生活されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示するとともに、職員一人一人に携帯させて、周知徹底を図れるように取り組んでいる。	玄関とホーム内に掲示し、又職員全員に携帯させ、理念を共有し、実践に取り組まれています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地元の人々と交流をとっている。又、行事参加の際に、役員の方を中心にして住民の方々にもホームへの理解、支援を働きかけている。	地域の防災訓練や、クリーン活動などに参加されています。又、散歩や買い物の時に地域の方に声をかけたりと積極的に地域の方と交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている				
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、ホーム内での取り組みを報告するとともに、地域の方の意見をいただいている。	2カ月に一回開催されています。ホームの現状報告や外部評価の結果など報告し、参加者からの意見も取り込んでサービスの向上に生かしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議では、近隣の自治会の方、市役所担当者に出席していただいている。また地域包括とは入所相談などで連絡・情報のやり取りをしている。	区役所職員が推進会議にも出席する事で施設の実績を理解してもらったり、職員が区役所に出向き利用者の相談等を行ったりし、協力関係を築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、研修を実施している。職員全員が見守りや共に行動する事により、拘束・抑制をしない対応を行っている。	玄関は施錠しておらず、自由に行き来される状態になっています。又、身体拘束のマニュアルがあり、研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組まれています。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待に関しての研修を年2回必須研修として職員に周知徹底を図り取り組むとともに、朝のミーティングなどで意識付けをするよう行っている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内他施設にての活用経験などを共有出来るように情報交換の機会を月に1回もっている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時・解約時に十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約の際、十分な説明をしている。ホーム内にも苦情受付窓口及び第三者委員の掲示をするとともに、苦情受付箱を設置している。又、日々のコミュニケーションから本人の気持ちを引き出すよう心掛けている。</p>	<p>面会時に家族から意見や要望が出され、何でも話せる関係作りをされています。6人という少人数であり利用者と職員のコミュニケーションがしっかりとられ、利用者の気持ちをくみ取られています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日々のミーティングや定期的なカンファレンスで職員の意志を聞いている。また年2回人事考課制度にて1対1の面談を時間をかけて行っている。</p>	<p>月に一回食事会をし、職員から意見を聞く機会を作られています。日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人会議での状況報告で検討する。又、定期的にホームを訪問し、職員の勤務状況を把握するとともに、助言、指導及び相談にのるよう努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修実施とともに施設外研修も積極的に企画したり、参加出来るように支援している。(研修費の補助、研修カードの作成など)</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>西区内のグループホーム連絡会月1回。堺市全体の連絡会年2回。空室状況や、様々な情報共有化、合同での研修など取り組んでいる。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づ

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居に至るまで、出来る限り面談をし、本人と会い、コミュニケーションをより多くとれるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談の際、出来る限り家族と本人が同席の上で行うようしている。又、ホーム側から情報交換をできる係わりを積極的にとるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談者の介護支援専門員と協力し、入居検討及び相談に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員がするのではなく、入居者がするのを支援することを1番に考え何事にも取り組んでいる。入居者とともに生活し、共感できる環境作りを構築するよう努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が気がかりなことや、希望などを気軽に話せる関係を構築するため、面会時のコミュニケーションやホームでの催しの際、積極的に家族に参加してもらえるよう努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方が気軽にホームに訪れ、本人とコミュニケーションをとれるよう家族にも協力を仰いでいる。</p>	<p>馴染みの方がホームを訪れたり、散歩や、買い物時に声を掛けられたりと地域住民の馴染みの人との係わりを損なわない支援をされています。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>他者のことを中傷する会話などに職員がさりげなく加わり、声掛けなどにて円滑に関係をたもてるようにしている。又、一緒に支え合って作業ができる環境を作っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>希望があれば、検討、支援していく。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴・受容を基本に考え、本人が過ごしたい生活に近づけるよう努めている。又、困難な場合には、家族にも協力をあおいでいる。	日々の暮らしの中で食事のメニューや、毎日の過ごし方など本人の希望を聞き、意向の把握に努めています。意思疎通の困難の方は本人本位に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	得意なことや昔の仕事など、アセスメントで聞き出し、そういった暮らしを活かせるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康観察はもちろん、生活状況を観察し、一人ひとりにあった声掛けや支援ができるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を踏まえ、計画作成前に、カンファレンスを行い、他職員間で意見を出し合い、介護計画に取り入れている。	3ヶ月に一回モニタリング、カンファレンスを行っています。面会ごとに日々の変化を報告し、意見を求め、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プライバシーに考慮しながらも、居室の訪室やコミュニケーションを図り、1日の状態把握に努める。又、職員間で統一した支援ができるよう日誌や共通理解帳、ミーティングを活用し、意見交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が通院できない場合の支援や家族との外出、外泊など要望に応えられるよう日頃より、コミュニケーションを図るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅介護支援センターを通しての見学会など、いつ誰がきてもホームの生活を見ていただけるよう心掛けている。又、消防と合同避難訓練実施や図書館利用、交通安全フェア参加など。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師週1回の往診、その他随時医師及び看護師の往診ある。医師、看護師ともに24時間オンコール体制がとれている。 又、本人が希望する医療機関があれば、受診可能である。	基本的には利用者ほ事業所内のかかりつけ医に受信されているが、希望により他の医療機関へも受信されています。事業所内へは週一回の定期的な往診と体調の変化に対して随時の往診がされています。又、医師、看護師共に24時間オンコール体制がとられ、支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の鳳デイサービスセンターとの兼任で看護師が週5日勤務しており、契約医療機関の看護師と相談し入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時及び面会時に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では、看取りの指針を基本に、よりよい生活を継続できるよう支援していくことを掲げている。必要に応じ家族とともに支援に取り組んでいく。	看取りの指針を基本に、早い段階から重度化や終末期について入居者・家族と話し合いをもたれています。医師、看護師共連携をもち、実践に備えている事が見受けられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成してあり、研修会も実施し、職員への習熟に努めている。又、実際に緊急事態が起こった後にも、検討会や研修会を行ってきた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いで年2回避難訓練を実施している。消防の指導で家庭用火災感知器を設置している。地域の避難訓練参加、GH連絡会で他施設の取り組み情報交換、本部でのアルファ米の備蓄など。	年二回の避難訓練の実施と家庭用の火災報知機の設置、非常食の備蓄等で防災に努めている事が見られます。地域の避難訓練にも参加し、地域との協力体制も図られています。	ホーム独自の災害マニュアルの作成を考えられており、今後の実施にきたいします。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人の訴える言葉の裏にあるものを理解する様心掛け、受容的でさりげない対応を行っている。</p>	<p>入居者の気持ちを大切にされ、さりげない対応や言葉かけがされており、利用者一人ひとりの人格を尊重されています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>何をする際でも、本人の意志を反映している。又、外出など参加の有無は自己で決定してもらっているが、参加してもらえるよう日頃から関係構築している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望があれば、いつでも散歩や買い物に出掛けるなど、それぞれの方のペースで生活できるようにしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に化粧をし、よそ行きの服装をし、外出している。又、理容は本人の希望があれば、望む理容店へ出掛ける。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備の際は、入居者とともに切る、洗う、盛り付けるなど一緒にを行い、後片付けは自己の食器は自己で行うよう声掛けし見守っている。又、見守りの必要な方の隣で職員も食事をし、さりげなく介助できるようにしている。</p>	<p>食事の準備や後片付けは入居者と共に行われています。メニューも入居者と相談しながら決められ、好みも取り入れられています。職員と入居者が同じテーブルで食事をされ、介助が必要な方にはさり気ない介助が行われています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、基本的に法人内栄養士が栄養バランスを考え立てている。食事摂取量、水分量とも必要に応じ、記録及び、目標食事・水分量を決め一人ひとりに合わせ取り組んでいる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の能力に応じ、声掛けや介助を行い、歯磨き、義歯洗浄にもれがないよう努め、口腔内の異常にも注意を払っている。又、週1回の歯科往診での歯科医の観察、必要に応じ助言、指示をもらっている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿・便意の曖昧な方でも、時間やしぐさを見て、トイレ誘導を行っている。又、本人が安心するということで紙パンツを利用していてもトイレ誘導を徹底している。</p>	<p>尿意・便意の曖昧な方でも、しぐさや時間決め声掛け誘導されています。把握した情報を職員間で共有されパターン把握に努められトイレで排泄できるよう支援されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>なるべく薬に頼らず、毎日の散歩・野菜・牛乳・果物の摂取を呼びかけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>希望通りの時間帯、入浴時間で入浴してもらい、毎日入浴希望あれば入浴してもらっている。又、時々併設の鳳デイサービスにあるヒノキ風呂を利用している。</p>	<p>夕食前後の入居者の希望に添った時間帯になっており、希望があれば毎日の入浴行われています。入浴できない時は清拭をされたり、入浴を拒否される方には日を変えたりされ対応されています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>リビングや自室、必要に応じて外に出て、気分転換を行っている。 昼間の活動時間を（散歩など）を増やし、夜間の睡眠につなげる。又、眠れない方には温かいものを提供するなどおこなっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬については、ケース記録に服用の有無を記録している。又、薬局からの薬の説明書個別ケースに貼付し、全職員が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事作り、園芸、手芸など、個々の出来ること興味のあることに取り組んでもらえるよう支援している。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>散歩、買い物は、毎日の日課にしている。又、地域の行事にも積極的に参加している。行ってみたい所や思いを普段の会話よりくみ取り、外出行事に取り入れている。</p>	<p>毎日近くのスーパーや薬局・商店街にいかれたり、月2回はおやつ外出へ行かされている。希望を尊重され個別外出も行われており、家族の希望で付き添いも行われています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方には、自己で行ってもらっている。又、自己でできない方でも、小遣い帳を自分で記録するなど行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望時にすぐ対応している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気になるようし、装飾などは季節感のあるものを、入居者と共に考え手作りするよう心掛けている。又、日の当たるところにはカーテンをつけたり、テレビの音量調節など、落ち着いて生活できるよう対応している</p>	<p>家庭的な雰囲気であり入居者が作られた作品や共に作られた季節感が感じられる作品が飾られています。風通しがよく、日の光もうまく取り入れられ明るく居心地よく過ごせる環境作りに配慮されています</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや食堂、玄関先のベンチでくつろげるようにしている。そこで気の合った方同士で過ごしたり、一人になり過ごしている姿もある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具、生活用品は、食器に至るまで、使い慣れたものを持ち込んでもらい、使用してもらっている。又、家族や本人と話し合い、居室の模様替えなども行っている。</p>	<p>居室には入居者の使い慣れた馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ居心地良く過ごせるよう配慮されています。模様替えも入居者の方や家族と話し合われ行われています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれに手すりの設置など、生活空間に工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない	②
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない	①
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない	②
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない	②
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない	③
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない	②
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない	②
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない	②
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	①

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	②
66	職員は生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	②
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	③
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	③